

新製品開発におけるフロント・エンド・ローディング

“先入観の落とし穴と新製品開発”

—新製品開発を支える精神力—

(株) ジョンケルコンサルティング 落合以臣

Front-end loading in new product development
“Pitfalls of preconceptions and new product development”
- Mental power to support new product development -
Shigemi Ochiai, Jonquil Consulting Inc.

Keywords

経験・過去・類似・陥る・判断・体系的・年長者・事象・解明・暗黙知・新製品開発・形式化・数値化
Experience/Past/Similar/Falling/Judgement/Systematic/Elderly/Event/Elucidation/Tacit
/New Product Development/Formalization/Quantification

経験と言う名の呪縛

人生を生きてきた中で、多くの人々が自身の落とし穴に気付かないで過ごしていることが多いと思います。まだまだ人生とはと語る年齢でもありませんが、人生の終盤に近づいてきますと、別に楽をしたいという気持ちからではないのかもしれませんが、過去の経験で生きようとする傾向にあります。なぜそうした状況に陥るのかと言えば、それぞれの生き方は違えども、経験の根本を見れば、そうそう変わるものではないからです。しかしながら、よくよく考えて見ますと、体系的に見れば、確かに経験に類似した事象はあるでしょうが、事象の中身を精査し始めますと、どうも過去の経験では判断できないということがわかり始めます。ここで、素直になって新たな目を通してみれば、過去の経験を土台にした発想の転換が生まれるはずですが、年齢を重ねる程度の年配者になりますと、年長者という傲慢さから、過去の経験を通して解決しようとし、その状況が、すでに老取る化していることに気付かず、周りの人から疎まれる存在になってくるわけです。

こうした私自身の現状を自戒しますと、経験から判断することも重要ですが、経験だけの判断では、先入観が先行し必ず落とし穴があるということに、ここ最近思うようにしています。特に、未踏の地における技術開発を手掛けていればいるほど、その境地になることが重要であると思ふ次第です。

先入観の落とし穴と新製品開発

では、先入観の落とし穴に踏み入れないようにするには、どのような方法論があるのでしょうか。それは、目の前に事象が迫ってきた時には、判断すべき事象の内容を可視化することから始めます。その可視化された内容が、過去に経験してきたことなのか、過去の経験とは少し違うけれど同じような分類に属するのか、まったく経験したことがない新たな課題なのかを、可視化して見極めることが重要です。

その可視化という行為は、新製品開発で述べてきました RCOM (Risk Control Method) に相当します。RCOM によって可視化ができますと、自分一人ではできないということが、体で分かることとなります。その体で分かるということが、重要で年を重ね年長者になりますと、そのためにエネルギーを使うことを嫌い、可視化した項目をひとつひとつ解明していくことをしなくなります。それそのものが、新製品開発における先入観の落とし穴と言わざるを得ませんし、必然的にまつわりついてくる現象でもあります。

ある意味では、若かろうが年長者であろうが、先入観に陥ってはいけません。特に、新製品開発において、1980年初頭にマイケル・ポランニー先生が提唱された暗黙知を形式化(数値化)している過程では、御法度言っても過言ではないでしょう。百害あって一利なしと言っても良いかも知れません。

虚々実々と新製品開発を手掛けております現状で、日々大きなストレスを抱えていることは、これも天から与えられた試しの証として捉え、人生最後まで可視化にいそしみ、そこからのほんの一寸の光明を得ることに期待したいと思います。